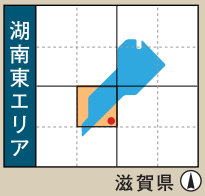
名勝
県指定

安養寺庭園（あんようじていえん）

栗東市安養寺　昭和57年3月31日指定



栗東の安養寺地区は、古くから琵琶湖東岸の聖なる地と考えられており、古寺や古墳が多く存在することでも知られています。安養寺は東方山と号し、一説には、聖武天皇より東方瑠璃山安養寺の勅願を賜り、天平12年（740）に良弁僧正が薬師如来を本尊として開いたのが始まりといわれています。

当時のできごと	
743年	大仏建立詔
1570年	姉川合戦
1687年	生類憐れみの令が出される

安養寺について

安養寺は、金勝山（こんぜやま）を中心として華開いた、奈良時代の山岳仏教寺院である金勝（こんしょう）寺二十五カ別院の内の一つといわれています。現在では真言宗大覚寺派に属していますが、平安時代に太政大臣藤原冬嗣の本願によって、弘法大師空海が教えを説いて各地を巡った時の霊場でもあります。

長享年間（1487～1488）に足利義尚がここに鉤の陣所（まがりのじんしょ）を設け、六角氏と戦います。元亀元年（1570）8月には、織田信長の兵乱により全伽藍を焼失しますが、本尊薬師如来三尊のみが焼失をまぬがれました。

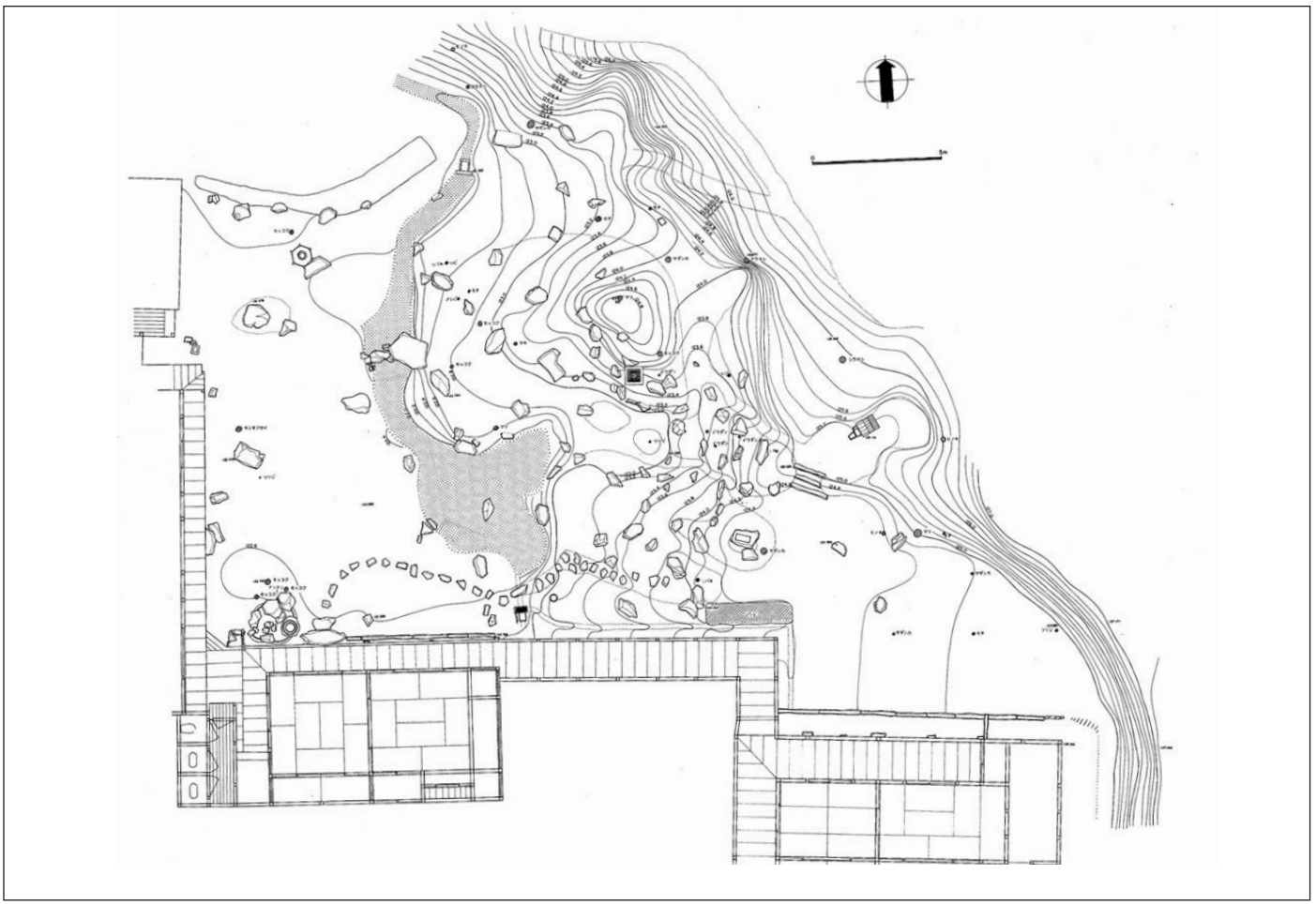
現在の伽藍は、貞享2年（1685）、律宗の僧慧堅戒山により再興されたものです。



七重層塔



安養寺庭園全景



安養寺庭園実測図

庭園の特徴

庭園は、本堂から続く渡り廊下でつながれた客殿の北側と、庫裡（くり）書院の東側に面し、安養寺山の山裾を樹木とともに、背景として巧みに利用した、池泉鑑賞式の庭園です。

前方に曲池を設け、その背後に築山を築き七重の石造層塔を据えて添景とします。また、西書院から見ると、この七重層塔と相対するように大きな立石を配するなど、要所要所に景石を配した平明な感じのする庭園です。

作庭年代は明らかではありませんが、江戸時代の終わり頃だと推定されます。また、近江八景を模したという伝えもあります。

関連する文化財

安養寺十三重塔（重文）	鎌倉時代末期頃の作。台石の3面に僧形像、軸石4面に四方仏を彫刻する
安養寺 木造薬師如来座像（重文）	13世紀後半期の慶派の作風を示す。両脇侍も指定は受けていないものの、同時期の作と考えられている
大角氏庭園（栗東市）	シートNo.081

もっと深く知りたい

栗東歴史民俗博物館	☎077-554-2733　栗東市小野223-8
栗東市教育委員会	☎077-551-0131　栗東市安養寺8-4-5

安養寺庭園へのアクセス　JR草津線　手原駅下車



【参考文献】〔滋賀の美 庭〕京都新聞社　〔滋賀県の庭園1～3〕滋賀県教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月